

## 2006 年度活動報告書

### ■ご挨拶…代表 中平順子

刺繍創作コンテストをベトナムで開始してから6年の歳月が経過し、いまようやく「私たちができる支援」というものが体系となって構築されてきました。ここまでたどり着けたのは、毎年のようにこの活動に力強い後援をくださる民間協力団体アクアのみなさま、そして温かいお気持ちとご理解のもとにご寄付をくださる、支援者のみなさまのおかげです。改めて御礼を申し上げます。

### ■6年間で構築された、ABMSの支援体系

① 教育的支援の目的…上記のとおり「表現力・創造力の向上」、「自信を持っていきる力の育成」など。これらを目指して取り組んでいる活動は以下のとおりです。

- ・刺繍創作コンテストによる表現力・創造力・製作力の向上
- ・自己を見つめる力、目標を持ち実行させる力の育成
- ・支援者の拡大…寄付金だけの支援者と、活動をともにしてくれる支援者が集まりつつあります。昨年度はベトナムへの同行者が1人だったのに対して、2006年は5名が同行しました。そのうちの3名があるセンターの運営資金を募るなどの支援策を考え中です。現地を訪問したことで、より現状を理解し「自分たちに何ができるのか」ということを足元から考えてくれるようになりました。
- ・商品を発注することで、ABMSより支払われた資金がセンターの運営費に充当されるほか、製作者の子どもたちにお小遣いとして還元されています。（これにより、子どもたちの路上物売りを防ぐことができるほか、小規模ながら貧困の撲滅に今後貢献できる兆しあり。）

② 文化交流支援の目的…国際平和構築の一助となるべく、草の根の立場から将来にわたって手を取り合える関係の構築を目指します。これらを目指して取り組んでいる活動は以下のとおり。

- ・コンテスト作品の日本国内での展示（文化交流）  
（今までに、滋賀県、群馬県、埼玉県で2年間に渡って展示会開催。開催先からの商品発注などの取次ぎも行っています）
- ・「支援施設訪問見学ツアー（スタディーツアー）」の開催

より多くの日本の方々にベトナムの現状を知ってもらうため、そして支援の輪を広げるために昨年よりツアーの開催を始めました。

③ 社会貢献型の商品取引と、それによるセンター運営支援の目的…ベトナム国内の最貧困層にある子どもたちが教育を長期にわたって受けるためには、センターの安定運営が欠かせません。安定したセンター運営の一助となるべく、ABMS自らが社会貢献型の商品取引（ベトナム・アジア各地などの雑貨販売も含め）をし、会の活動経費を除いた売り上げをセンターに還元できるような支援システムの構築を目指します。そのために、2006年のベトナム訪問では、センターへの商品発注のほかに、計26万円の費用を投じて雑貨類を仕入れてきました（記念パーティー費用は別。ちなみにこちらの総額は約25万円でした）。これらを目指して取り組んでいる活動は以下のとおりです。

- ・ コンテスト出品作品によるオンリーワン商品の開発と発注
- ・ 発注商品の日本国内での販売（次回の訪問や注文、寄付金の資金源の確保）
- ・ センター製作の販売製品を大量に購入することで、センターの運営を間接的に支援。

★実際に 2006 年に依頼した発注商品、購入したセンター製作商品の内容は以下のとおりです。

○2006 年 12 月

レミンスアンセンター

半襟（5枚）ランチョンマット（30）コースター（60）タペストリー（5）帯居1本（鈴の屋さん）

ビンチュウセンター

ランチョンマット（30）コースター（100）パース（5）バック（20）

タンフーンセンター

ブラウス（10）パンタロン（4）

トゥーティエムセンター

半襟（5）

センター製品購入

ビンチュウセンター 雑貨

トンアン聾学校 ハンカチーフ・カード・裂き織り製品

キンヤンセンター ランチョンマット・コースター・テーブルクロス

ビンフンセンター ハンカチーフ・カード類

## ■2006 年度を振り返って

2006 年前半の活動は、①「アジアの文化を守り、育てる会（以下、ABMS）の活動リーフレットの作成（日本語版・ベトナム語版）」、②記念パーティー開催の周知、③6月にセンターを中間訪問し、きちんとした通訳者のもとで会の活動内容と目的を指導教師・センター長に伝える、④センターの状況リサーチ、という4点に取り組んできました。また、2006年の後半には恒例の刺繍コンテストではなく、ホーチミン市内の高級ホテルに会場を貸しきり、全作品を展示する「刺繍創作コンテスト展示記念パーティー」を開催しました。本来ならば、2006年もコンテストを開催するべきでしたが、センターの子どもたちが卒業してしまったり、公立学校に編入できたりなどの事情があったため、以前からセンターより要望されていた交流会を開催するという運びになりました。

こちらのパーティーの目的は、・改めてOHPなどでABMSの支援事業内容を説明する、・日本での作品展示会の意義とその評価や観賞者の感想をベトナム側に伝える、・展示された作品を改めて参加者ひとりひとりが見直し、自身の表現力・創造力の成長を確認する、・普段交流がないというセンター同士を密な関係にするべく、パーティーを情報交換・交流の場として活用してもらうネットワークづくり、以上これらの点を目的に記念パーティーを開催しました。

パーティーは2006年12月3日に、ベトナム・ホーチミン市内のグランドホテルで開催しました。当日の参加者数は約120人です。参加センターは、ビンチュー、ビンフン、トゥーティエム、キエンザンの4センターと、トンアン、ヒーボン1などのろう学校あわせて6つの施設が参加しました（参加を希望していたレミンスアンセンターは、センターの校長先生・刺繍指導教諭が交代したほか、センターの子どもたちが公立学校に編入した直後だったこともあり、急遽、参加がキャンセルとなってしまいました）。

当日のパーティーでは、作品をただ展示するのではなく、展示した作品を自由に閲覧する時間を設けたほか、「会場賞」なるものを設置しました。当日、参加した生徒・教師・関係者全員に投票用紙を配布し、一番良いと思う作品にひとり1票ずつを投票してもらい、一番得票数の多かった作品製作者に賞状と商品を授与しました。こちらの会場賞は、トゥーティエムセンターのグエン・ティ・モン・グエンさんが受賞しました（※文末の写真コーナーをご参照ください）。また、交流会では日本から同行してくださった方々による歌（オカリナ演奏による『さくらさくら』）や踊り（盆踊りの『炭坑節』）も披露しました。パーティーに参加した子どもたち、そしてセンターの先生も一緒に踊りの列に参加し、楽しいひと時を過ごすことができました。後日にベトナム国内でNGO活動をしているスタッフ（FFSC）から聞いたところ、ここ近年はこのような交流会形式のイベントを開く団体が減少しているそうです。奨学金やパソコンの寄付、文房具や制服代といった支援が多い反面、子どもたちが直接その場で楽しんだり、喜んだりするようなものが少ないということでした。今後ABMSでは、こういったレクリレーション的なイベントにも精力的に取り組んでいきます。

## ■2006年12月のセンター訪問

12月の支援訪問では、上記の記念パーティー開催のほか、ビンフン、ビンチュー、タンフーン、キエンザンなどのほか、新たに刺繍コンテストへ参加を希望しているビントーセンターを訪問しました。センター責任者の先生、そして刺繍指導にあたる教師と綿密なミーティングをし、センター内の状況や商品発注についての相談などをしました。その結果、刺繍コンテスト最大の目的である「**表現力・創造力の向上**」と、刺繍製作を通して子どもたちに「**自信を持って生きる**」という点が達成されているという共通認識を持つことができました。

また、センターの子どもたちが卒業したり入れ替わるなどの事情により、継続が困難と見られた刺繍創作コンテストについてですが、12月の訪問時にセンターへ聞いてみたところ、あるセンターでは、「実際に技術力の高い子どもの数は少ないが、皆一生懸命練習して刺繍コンテストに挑戦することを楽しみにしている」と話してくれました。ビンフンセンターなどからは、「刺繍コンテストはセンター内の技術力の高い子どもたちにとっては、さらに技術を上げるための大きなチャンス。表現力をもっと向上したいと願う子たちが参加する場として、今後も継続してほしい」との意見も受けました。また、キエンザンセンターでは、今まで継続して参加してきた生徒で最優秀賞を受賞した生徒が、センター内の刺繍プログラム指導者として働いていました。これらの指導教師の意見や子どもたちの熱意・成長を踏まえ、いまは参加希望者が少なくとも、大人数であることが刺繍創作コンテストの目的ではないので、たとえ数人でも今後はコンテストを開催していくことがABMSの支援課題であると強く認識しました。

支援事業の柱③（社会貢献型の商品取引と、それによるセンター運営支援の目的）のコンテストを通じたオンリーワン商品の開発については、2006年もまたセンターの都合に合わせる形で商品を注文してきました。センターの都合に合わせるというのは、あまり多すぎる注文をしても学業の妨げに

になってしまう ことがあるためです。その年の刺繍コンテストで良いと思われるデザインをもとに、センターには以下のような内容で商品を発注してきました。また、この注文 を受けて製作に携わった子どもたちには、センターからお小遣いが支払われていることも判明しました。センターによると、このシステムを活用することで路上 での物売りを阻止できるとのことでした。

### ★緊急連絡！ タンフーンセンターの縫製プログラム

タンフーンセンターで職業訓練として取り組んでいる縫製プログラム事業がピンチを迎えています。ABMSでは、いままでずっと継続してタンフーンセンターで取り組んでいる縫製プログラムに技術的な支援をするほか、センター 運営に役立てるための商品注文、ほかの日本の団体より届けられた寄付をこちらのセンターに継続して届けてきました。しかし、2006 年はさまざまな事情により、日本の団体からの寄付が打ち切られてしまいました。それにより、2007 年度のタンフーンセンター縫製プログラムの予算がつかない状況となっています。タンフーンセンター縫製プログラムの年間維持経費は約 15 万円とのことです。ABMSでは、緊急事項としてこちらのプログラムを支援できる方策を考えなくてはなりません。何か良いアイデアなどありましたら、こちらまでご連絡をお願いいたします。

### ■記念パーティーの様子

2006 年 12 月 3 日の記念パーティーの様子です。



○HPでABMSの活動内容を参加者全員に説明





トンアンろう学校のみなさん



交流会で自作の歌を歌ってくれた、キエンザンセンターのふたり



トゥーティエムセンター



会場に全作品を展示し、約1時間の自由閲覧時間を設けました。  
じっくりと手にとって観察し、ひとり1票を投じてもらい、「会場賞」を選びました。



「会場賞」で最多の投票数を得たのは、トゥーティエムセンターのグエン・ティ・モン・グエンさんでした。



日本からの支援で参加いただいた、着物デザイナーの野崎文子さんが作品講評をしてくださいました。それと同時に、日本の着物リメイクのアイディアを活用した伝統文化の継承などについて、さまざまなアドバイスをくださいました。



交流会では、日本から来た支援者たちによる、歌や踊りが披露されました。アクアの畑氏による朗々とした詩吟など、ベトナムの子どもたちはみな、初めて見る日本の文化に大変刺激されたと、そう話してくれました。また、ベトナムを訪問中中の音楽家劉宏軍さん（日本在住）が急遽駆けつけてくれ、笛の演奏をしてくださいました。



当日、ホテルのレストランを貸し切ってビュッフェスタイルの食事会を開きました。子どもたち、そして指導教師も一緒に「こんなおいしい食事、食べたことない」と喜んでくれました。

#### ■いままでに支援いただいた方々【敬称略・50音順】

個人：24名

団体：国際ソロプチミストとね沼田・民間協力団体アクア

作品展示会場協力：

国際ソロプチミストとね沼田（ホテルベラヴィータ）

滋賀県東近江市（能登川図書館・永源寺図書館・秦荘図書館・五個荘図書館）

蔵元 藤居本家

カフェギャラリー土瑠茶

埼玉県草加市川柳文化センター

温かいお気持ちとご理解、そしてご支援ご協力をありがとうございます。

2007年1月10日